

『なりたい私するために』

南比都佐小学校 6年 木村 莉里花

もし、目の前に困っている人がいたらあなたはどうしますか？

私は夏休みに、この「困っている人がいたらどうするか」ということについて自分事として考える機会がありました。

きっかけは図書館で「お手伝いしましょうか？」という言葉を見たとき、私がずっと気になっていたことがここにはあるんじゃないかと思い、その本を手に取りました。その本には、目の不自由な人、妊婦さん、車いすの人、外国人などが実際に体験した話が書いてありました。日本で生活している中で、その人たちがどんな気持ちでいたのか、何に困っているのかがわかりました。たとえば、目の不自由な人は電車の黄色い線を頼りに歩いているので、その上に人がいるとよけなければならず困ること、方向を間違って落ちそうになったことがあるなどとありました。そして、ちょっとしたことでも自分には危険に繋がるのでやめてほしいという思いを持っているけれど、それを自分から言いにくいことも知りました。このように、少し外に出るだけでも私が想像していたよりも、たくさんのことについていることがわかりました。

その中でも印象に残ったのは、どの人も『「何かお手伝いすることはありますか？」ときいてくれるうれしいんです。』と言っていたことです。思い返すと、私の身近にもこの言葉に繋がることがあると気づきました。

私はこの夏に東京へ家族旅行へ行きました。東京でバスに乗った時のことです。先に座っていた人が、小学校1年生の弟に「席かわるよ？ 座って」と声をかけてくれました。きっとこの人もバスを待っていて、やっと座れたと思っていたのに、横に来た弟を見て声をかけてくれたんだと思います。弟は、このときの話になると、「男の人がなぁ！」と今でも嬉しそうな顔で話します。優しく声をかけてくれた思い出は、いつまでも心に残っていくんだなと思いました。

家族で「親切にされたとこ」について話していた時に、お姉ちゃんが赤ちゃんだった時の話をお母さんが話してくれました。お母さんは赤ちゃんだったお姉ちゃんを電車の中でベビーカーから抱っこしたときに、ベビーカーが倒れそうになったそうです。すると、中学生の男の子が「ぼくがベビーカーをもっておきますよ」と助けてくれたことがあり、とてもうれしかったそうです。

もし、私の目の前に小さな男の子や赤ちゃんを抱っこした人がいたら、声をかけることができたのかな。と自分に問いかかけました。

本の中でも出てきた「何かお手伝いすることはありますか？」という言葉を私が使う場面が来たら、悩む前に自分からこの言葉を使いたいと思います。でも、「大丈夫です。」と相手に断られたら…と不安になる自分もいます。でも、声をかけてくれることが嬉しい！という思いを知った今、進んで行動できる自分になりたいと思います。「大丈夫です。」と断られても、「近くにいるので何かあれば言ってくださいね」と声をかければいいと言葉を用意しておけば、気軽に自分から声をかけられそうな気がします。

世の中には、私の知らないことがまだまだあると思います。目で見てわかること、声に出せ

ば伝わることもあれば、それができないときもあるのです。「助けて」という言葉が迷惑をかけてしまうと思って、自分から言い出せない人もたくさんいると思います。助けてほしいときに誰にでも言える、日野っ子宣言にある「だれとでも頼り頼られ助け合い」のような、そんな社会になれば、みんなが幸せに安心して暮らせると思います。だから私は、自分から声をかけ、人を助ける行動力のある人に、そして困っている人に頼ってもらえる人になりたいと思います。